

ベネッセ駿台記述模試 結果判明!

10月13日(土)に実施された第2回ベネッセ駿台記述模試の結果が判明しました。9・10・11月と、三回にわたって実施されたベネッセ駿台共催模試(マーク2回&記述1回)の成績を基に、現在作成中の受験プランを完成させます(11月20日が担任への提出日となっています!)。デジタルデータはすでに閲覧可能となっていますが、成績個表は近日中に返却予定です。なお、第3回マーク模試の結果は明後日15日(木)にWEB公開され、来週には成績個表が返却される予定です。

*** 受験型&科目別 成績データ(受験者数、偏差値 etc.) ***

	国数英	国英社	数英理	現古漢	現古	現のみ	数学X	数学Y	数学Z	英語
受験者数	59	187	125	148	62	10	11	75	97	345
平均点 SS	54.3	58.1	52.5	55.8	59.3	57.3	59.2	53.8	50.1	54.8
(130 回生)	52.8	57.5	49.3	56.7	58.4	59.6	59.6	50.6	47.0	53.8
(129 回生)	52.5	55.5	50.3	52.6	57.0	60.2	56.8	53.2	47.5	52.5

	世界史B	日本史B	地理B	政治経済	物 理	化 学	生 物	化学基礎	生物基礎
受験者数	65	116	4	5	87	91	20	8	5
平均点 SS	55.1	59.4	54.0	65.6	49.9	52.2	57.0	61.8	57.0
(130 回生)	56.0	57.1	54.0	63.4	47.5	49.6	53.0	53.2	57.8
(129 回生)	53.7	56.7	53.7	64.5	45.8	51.5	53.1	57.0	57.2

*1. 記述模試での受験科目は国公立大2次試験&私立大個別一般入試で使う科目。

2019年度入試の志望動向

9月に実施された、第1回ベネッセ駿台マーク模試のデータから見る2018年度入試の志望動向概況と大学別の志望動向分析が、ベネッセコーポレーションから発表されましたので、報告します。

<国公立大の志望動向と特徴>

- ここ2、3年で文理別の志望者数の変動は落ち着きつつある。
- 理系の学部系統で志望者が減少(ただし例外的に、「情報」系統は大部分の大学で志望者増)
- 学問の高度化、複雑化に伴う理工系学部の改組(ex 東工大、農工大、宇都宮大)

<私立大の志望動向と特徴>

- ここ2、3年は文系(特に国際関係学系統)を中心に志願者数が増加
- 2019年度入試では、「入学定員の厳格化」は落ち着くが…
⇒ 早慶上理&GMARCH: 志望を下げずに各大学の対策を行い、3月まで諦めない。
東駒専&大東亜帝国、地元私大 前年より難化の可能性

首都圏 国公立 志望動向概況一覧 その1

* 国公立大の出願目安は「B」判定値に設定。(第1回ベネッセ駿台マーク模試のデータに基づく分析)

<東京大学>

文科系: 偏差値70付近の志望者が若干減少。文一B判: 74、文二B判: 73、文三B判: 72

18年度入試では、センター得点率90%前後の場合、合格率80%以上

理科系: 理三の第一段階選抜4→3.5倍。面接が課されるようになり18年度入試で志願者が減少した三類は、志望者数対前年比105と増加。理一B判: 71、理二B判: 71、理三B判: 75

18年度入試では、センター得点率90%前後の場合、理一、理二は合格率60%以上

<東京工業大学>

大学全体の志望者度数分布は大きく変わらない。B判: 66~67(理67、工67、物質理工66、情報理工67、生命理工66、環境社会66)。今回から学院別募集に変更、前期日程では、第3志望まで学院を志望することができる。

募集人員に対する第一志望者数の状況では、情報理工学院に集まっている。

<一橋大>

<前>法B判: 70、経済B判: 69、商B判: 69、社会B判: 69 社会は、学部全体の志望者数の変化はないが、B判定前後の志望者が増加。

<後>経済B判: 75 18年度入試で実質倍率が低下した経済<後>は、志望者数対前年比90。B判定以上の志望者に大きな変動はなく、東京大との併願関係の強さに変化はない。

<埼玉大>

<前>経済一般枠B判: 57、国際プロB判60、教育B判: 53(教育/学校/小学校/文系B判: 56)

教養B判: 57、理/基礎化B判: 58、理/数学B判56、理/分子生物B判: 58、理/生体制御B判: 57

理/物理B判: 56、工/応用化B判: 54、工/機械工・シB判: 54、工/電気電子物理B判: 55

工/情報工B判: 55、工/環境社会テB判: 53

<後>経済B判: 63、教養B判: 62、理B判: 59、工B判57

経済(一般枠)は、B判定を含む偏差値50台半ばから志望者数が増加。18年度入試では、東洋大・経済(セ)の併願合格率が高かった。教育・教養・理では大きな変化は見られない。情報工を除いて実質倍率が低下した工は、今回の模試動向でも前年を下回る志望者数になっているっ学科が多い。情報工は系統人気を背景に、厳しい入試になる可能性。

<埼玉県立大>

<前>看護B判: 53、理学療法B判: 55、作業療法B判: 53、健康/健康行B判: 50、健康/検査技B判: 55

健康/口腔保B判: 53、社会B判51

<後>B判: 56(保険医療(理学療法)では、B判定前後に志望者が集まっているが、その他は前年並)

<千葉保健医療大>

看護B判: 54、栄養B判: 55、歯科衛生B判: 51、リハ/理学療B判: 55、リハ/作業療B判: 52

学部全体で志望者が減少しているが、科目負担が減る健康科学(リハ/理学療法)は、志望者対前年比133と大幅な増加。入試本番でも前年を上回る志願者となる可能性がある。

<千葉大>

<前>文B判: 61、法政経B判: 63、教育B判: 57、国際教養B判: 62、理B判: 60

工B判: 60、医B判: 71、薬B判: 65、看護B判: 60、園芸B判59

➡裏面に続きます。

＜千葉大＞

前期日程については、全学部で志望者数対前年比を下回っている。文（人文/行動科）はB判定となる偏差値60以上の志望者がやや減少している。18年度入試において、文全体のMARCH併願合格率は

20～30%前後。法政経は、第一段階選抜の倍率変更となるが、志望者度数分布に影響は出ていない。18年度はマーク模試偏差値60代から合格率50%を上回った。理はB判定以上の志望者数学・情報数は増加、生物は減少。工は総合/物質科と総合/情報工で、偏差値60前後の志望者増加。志望者減少の園芸、応用生命化と食料資源経済は競争緩和の傾向。教育・国際教養・薬・看護＜前＞は、学部全体で志望者数対前年比を下回るが、いずれも競争緩和の傾向は見られない。

＜後＞文B判：63、法政経B判：67、理B判：62、工B判：63、医B判：72、薬B判：67、園芸B判61

＜お茶の水女子大＞

＜前＞文教育/人文科学・言語文化・人間社会科学B判：65、芸術/舞踊B判：62、芸術/音楽B判：62

理B判：63（生物のみ64）、生活科学B判：65（人間・環境は63、心理は67）

数学の科目負担増となる理（数学）、理（物理）は志望者数対前年比90未満だが、B判定以上の志望者に大きな変動は見られない。新設2年目を迎える生活科学（心理）は志望者数対前年比130と人気が続く。生活科学のその他の3学科は、偏差値50～60台前半の志望者が減少。

＜東京海洋大＞　＜前＞海洋工B判：54、海洋生命B判60（海洋政策文化は59）、海洋資源B判：61

＜工＞海洋工B判：54、海洋生命B判59、海洋資源B判：60

18年度入試では、すべての募集単位で実質倍率が低下した。今回の模試動向でも志望者数対前年比

100を下回っている。工（海洋電子機械）と工（海事シス工）において、B判定前後の偏差値帯で志望者が減少している。海洋生命、海洋資源について、すべての募集単位で志望者が減少しているが、いずれもB判定以下の偏差値帯であり、難易への影響は少ない模様。

＜電気通信大＞　　＜前＞B判：58、＜後＞B判：59

前期日程はB判定前後の偏差値帯での志望者の増加がみられる。後期日程もB判定となる偏差値59以上の志望者が増加している。

＜東京医科歯科大＞

＜前＞医 - 医B判：72、医 - 保健/看護B判：62、医 - 保健/検査技B判：60、歯 - 歯B判：65

歯 - 口腔/保健衛B判：54、歯 - 口腔/保健工B判：54

＜後＞医 - 医B判：74、歯 - 歯B判66　　医 - 保健/看護は志望者前年比104、ただし、B判定に満たない偏差値帯での増加のため、難易変動は生じない見込み。

＜東京外国語大＞

＜前＞言語文化B判：67、国際社会B判：66、国際日本B判65　＜後＞国際社会B判：64

全国的には国際関係学系統は人気傾向だが、言語文化、国際社会ともにB判定以上の志望者に減少がみられる。新設の国際日本は、前身の募集単位と比較して、志望者対前年比139と人気。併願の検討工として、国公立では学内、私立大では明治大が多く挙げられている。

＜東京学芸大＞

＜前＞B判：58、＜後＞B判61

前後期ともに学部全体で志望者数対前年比100を下回るが、難易変動に影響を与える可能性は低い。

教育（初等/理科）はB判定以上の志望者が増加、前年と同程度の志望者数。

18年度入試での後期日程の学内併願は合格率約40%。私立大では文教大併願が多かった。

＜東京農工大＞

＜前・工＞機械シス工/応用化/化学物理工/知能情報B判：59、生命工/生体医用シスB判60

＜前・農＞共同獣医B判：65、応用生物/生物生産B判61、地域生態/環境資源科学B判：60

＜後＞工B判：63、農B判：63　　農はすべての募集単位で志望者が減少している。

工は落ち着いた志望動向。18年度入試の併願では、同学部の前後期受験は厳しい結果に。私立大では、芝浦工大の合格率が50%を上回った。

＜首都大学東京＞

＜前＞法B判：63、経済経営B判：61、人文社会B判：61、都市環境B判：57、理B判：58

システムB判：67、健康福祉B判61

前期日程では、7学部中5学部で志望者数対前年比100を上回り、大学全体として志望者が集まっている。B判定以上の学力層については、法は志望者数が増加、経済経営は前年度並みの動向。

都市環境（都市基盤環境）はB判定の偏差値56以上の志望者が減少。理（数理科学）、理（物）でB判定以上の志望者数に増加がみられる。システムでは航空宇宙と機械がB判定以上の志望者減。情報科学はB判定以上の志望者増で厳しい競争の可能性もある。

＜後＞人文社会B判：64、都市環境B判：59、理B判：60、システムB判：60、健康福祉B判57

＜横浜国立大＞

＜前＞経済B判：64、経営B判：63、教育B判：55、都市科学B判：61、理工B判：60

＜後＞経済B判：67、経営B判：68、都市科学B判：67、理工B判：66

前年よりも多くの志望者が集まっているのは理工のみ。その中でB判定となる偏差値を上回る志望者数が増加している募集単位は、化学/化学及、数物/数理科、数物/電子情、数物/情報工の4学科。

18年度入試前期日程で実質倍率4.0倍と上昇した都市科学志望者数対前年比92。都市科学（環境リスク）は、B判定となる偏差値60以上の志望者が増加。

経済前・経営前はいずれも前年並の志望動向。18年度入試で、MARCHの合格率が40%を超える募集単位もあったが、明治大・政治経済は合格率20%以下に留まった。

教育はB判定（偏差値55）以上の志望者が減少している。18年度入試では、マーク模試偏差値55から合格率が約80%に達する。

＜神奈川県立保福大＞

＜前＞看護B判：55、栄養B判：59、社会福祉B判：52、リハ/理学B判：57、リハ/作業B判：55

＜後＞看護B判：57、栄養B判：60、社会福祉B判：55

成績上位者が増加しているのは、保健福祉（看護）と保健福祉（社会福祉）の2学科。B判定となる偏差値は看護が55、社会福祉は52が必要。

＜筑波大＞

＜前＞人文文化B判：64、社会国際B判：64、人間B判：64、情報B判：60、理工B判：61、医B判：70

体育B判：62、生命環境B判：61、芸術B判：58

＜後＞人文文化B判：69、情報B判：61、理工B判：63、生命環境B判：63、芸術B判：62

18年度入試の前期日程では多くの学部で実質倍率が低下した。今回の動向では、社会国際、人間、情報で志望者数対前年比100を上回っている。人間、情報は、B判定値を含む学力層の志望者が増加。

➡次号へ続きます。